

駿東伊豆消防本部 高度救助隊発足式を挙行了しました。

平成 30 年度から高度救助隊の運用を開始したことに伴い、平成 30 年 6 月 8 日（金）に駿東伊豆消防本部高度救助隊発足式を挙行了しました。



【 高度救助隊とは 】

高度救助隊とは、人命の救助に関する専門的かつ高度な教育を受けた救助技術のエキスパート 5 人により構成される部隊で、震災をはじめとする大規模災害に対応できる部隊です。新潟県中越地震、JR福知山線脱線事故など、多様化・複雑化の度合いを増す大規模災害や特殊な災害が多発している状況から、中核市以上の都市には高度救助隊を配置することが定められました。

本消防本部は、平成 28 年 4 月の広域化により管轄人口規模が 43 万 3,060 人となり、中核市の基準である人口 20 万人を大きく上回ることとなり、大規模な災害が発生した際、管内で多くの被害が発生することが想定される中、いち早く要救助者を発見し、一人でも多くの命を救うべく、高度な装備及び知識・技術を有する救助隊が必要であることから、高度救助隊を設置することとなり、沼津北消防署に配置しました。

【組合管理者訓示】

駿東伊豆消防組合管理者であります頼重 秀一 沼津市長から「高度救助隊である誇りを胸に、一丸となって任務を遂行し、管内住民 43 万人余の安全・安心のため、即座に対応できるよう、日々鍛錬を重ね、技術向上に努めて頂きたい」と訓示を賜りました。



【組合議会議長祝辞】

駿東伊豆消防組合議会 植松 恭一 議長から「訓練を重ね、大規模な被害が発生した際にも、いち早く被災者を発見し、一人でも多くの命が救われると同時に、職員全員が一丸となって住民の安全と安心を守るべく、万全を期して頂くことを期待します」と祝辞を賜りました。

【隊プレート交付】

頼重 秀一 沼津市長から、第2部 石井 忠重 隊長に、隊プレートが交付されました。

隊プレートとは隊員が活動する制服の胸に掲げる隊章で、高度救助隊員であることの証となります。

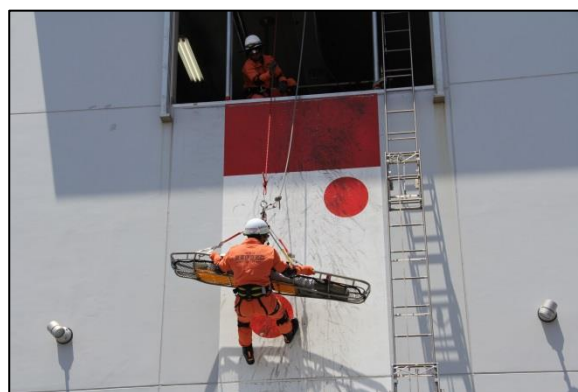


【代表隊長決意表明】

第3部 大川 猛 隊長が「高度救助隊としての誇りと責任を持ち、住民の皆様の安心・安全のため、日々技術の練磨、体力・気力・知識の向上を図り、信頼される高度救助隊となることを誓います」と決意表明をしました。

【訓練展示】

第1部 高柳 和也 隊長により訓練申告を行い、地震により共同住宅の1階が倒壊し、1階と3階部分に逃げ遅れた住人の方が取り残されているという想定で、高度救助隊の保有する高度救助用器具及び技術による訓練を実施しました。



【高度救助用器具展示】

式典終了後、高度救助隊発足に伴い、新たに導入した高度救助用器具を展示し、隊員から説明を行いました。



【 新たに導入した高度救助用器具 】

【 画像探索機 】

建物の倒壊により下敷きや、生き埋めになった被災者を探索する資機材です。先端にカメラ、マイクを取り付けたポールを隙間に差し込むことで、隅々まで探索し、モニターで確認すると同時に、マイクで会話をすることができます。



【 地中音響探知機 】

土砂の下敷きなどで、身動きのとれなくなった被災者を、振動や音で探索して居場所を探知することができる資機材です。



【 地震警報器 】

地震発生時に人間が感じにくいP波（初期微動）を感知しS波（大きな揺れ）が到達する前に警報を出す装置で、地震災害時における救助活動において二次災害を軽減するためのものです。



高度救助隊は本消防本部管内の災害だけでなく、日本国内で発生する大規模な災害へも緊急消防援助隊として出動することを想定しており、本消防本部の代表として、高度な救助技術を生かし、人命救助活動等において大きな役割を担うことが期待されます。

今後、更なる技術と知識の向上を図り、住民の皆様の期待に応えるべく、まい進して参ります。

